

# Interview #03

\*2026年2月インタビュー

2026年2月所属：理学研究科 理学専攻 物理科学領域  
(日本学術振興会特別研究員・東海国立大学機構次世代リサーチャー)  
2026年4月所属：自動車部品メーカー



## 理学研究科 金岡 優依 さん

### ■ これまでやってきた研究の概要を教えてください。

私は理学研究科の中でも、生物物理の分野に所属していて、高速原子間力顕微鏡という装置の開発と、それを使った計測・解析を行ってきました。タンパク質のような生体試料から、高分子材料や金属といったさまざまな対象のナノスケール表面構造を観察して、その動きや物性、例えば硬さや抵抗値などを測定する研究です。私は特に生体試料やタンパク質を扱うことが多く、実験だけでなく解析用のソフトウェア開発も並行して行っていました。装置開発からデータ解析まで幅広く関わることができたのは、自分にとって大きな経験だったと思います。

### ■ この春からはどのような仕事をする予定ですか？

この春からは、自動車部品メーカーの技術職として就職する予定です。まだ配属は決まっていないのですが、これまでの研究で培ってきた計測や解析の知識を活かす形になるのではないかと考えています。その企業でも基礎研究は行われていて、例えば材料の電気分解過程を測定するような研究もあるので、生物という分野に限らず、自分のやってきたことを活かせると感じました。また、北米やヨーロッパ、韓国にも拠点があるなどグローバルに展開している企業で、海外と関わる機会がある点にも魅力を感じています。留学や海外インターンシップの経験があったので、そうした環境で働ける可能性があるのは自分にとって大きなポイントでした。

### ■ 就職活動の経緯や、キャリアに関する考え方は？

もともとは学術振興会特別研究員DC2に採用されたこともあって、博士修了後はポスドクとして研究を続けることも考えていました。ただ、研究を進めていく中で、「自分でテーマを持って独立してやっていく」というイメージが少しずつ薄れてきた感覚がありました。一方で、研究以外にもいろいろなことに挑戦してみたいという気持ちが強くなっていった、企業であれば研究に加えて事業開発などにも関われる可能性があると考えようになりました。就職活動では、最初は自分の研究に近い製薬企業を中心に見ていましたが、実際に働いている方のお話を聞く中で、自分がイメージしていた働き方と少し違うと感じる部分がありました。そこから医療機器メーカーや他のメーカーにも視野を広げていきました。研究が忙しく、本格的に動き出すのは遅れてしまったのですが、大学のセミナーや企業の方のお話を聞く機会を活用しながら情報収集を進めていきました。最終的には、研究開発に携われることに加えて、グローバルに事業展開している点や、製品が広く社会で使われている点に魅力を感じて、今の会社に決めました。

### ■ キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

在学中にやってよかったと感じているのは、海外の学生との交流です。学部時代に留学を経験して、その後も国際学会や研究会で海外の学生と話す機会を積極的に作ってきました。実際に交流してみると、海外の学生は研究へのコミットメントが高く、それでいて自分の時間も大事にしている姿勢が印象的で、とても刺激を受けました。また、大学のキャリア支援セミナーを活用したり、企業で働いている方の話を直接聞くことも意識していました。研究が忙しくて就職活動に十分な時間を割けない中でも、そういった機会を使うことで効率よく情報を集められたと思います。振り返ると、研究と就職活動をしっかり切り替えて、それぞれの時間に集中することが大事だったと感じています。

## ■ 就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

研究の成果だけでなく、いろいろなことに挑戦してきた経験を評価していただけたのかなと感じています。論文や国際学会での発表といった研究面に加えて、海外での経験や、学部時代に学生団体の代表を務めたことなどもお話しする機会がありました。

そうした経験を通じて、自分がどんなことに興味を持って行動してきたのかを伝えられたことが、結果的に評価につながったのではないかと思います。

## ■ 後輩たちにエールをお願いします。

キャリアや研究について「やりたいことは何ですか」と聞かれることが多いと思うのですが、私はそれは後から見えてくるものだと思います。私自身も、最初から明確にやりたいことがあったわけではなくて、留学や海外の学生との交流、学生団体の活動など、「ちょっと面白そう」と思ったことに取り組んできた結果、それが後から自分の方向性につながってきた感覚があります。

なので、まずは自分が少しでも興味を持ったことに挑戦してみることが大事だと思います。やってみて違うと思ったら、無理に続けるのではなくて、距離を置くという選択もあっていいと思います。

博士課程については、研究をやりたいのであればおすすめです。しんどいと感じる場面もありますが、それは研究の中でしか乗り越えられない部分でもありますし、取り組む中で得られるものも大きいと感じました。社会人になってから取り組むよりも、学生のうちに経験しておく方が良いのではないかと思います。また、英語はできるだけ話す機会を増やすことが大事だと思います。実際に使いながら身につけていくことで、研究や仕事の幅も広がると思うので、ぜひ意識して取り組んでみてほしいです。